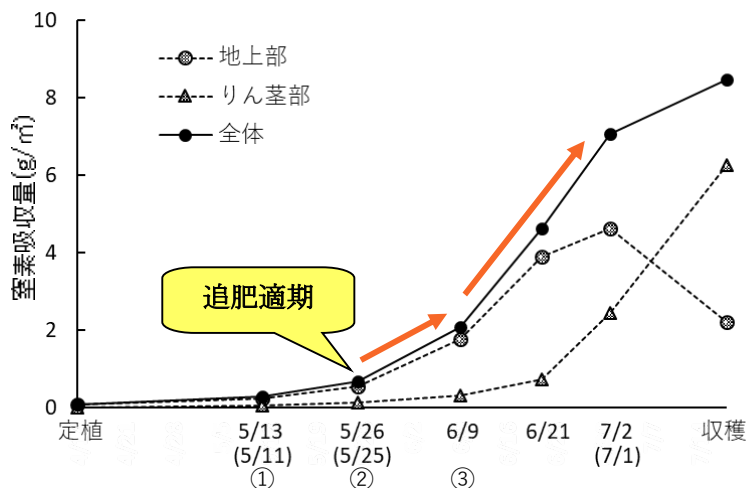




春まきたまねぎ栽培における窒素追肥の最適時期

【1 成果の概要】

水田転換畑での春まきたまねぎ栽培で窒素追肥を行う場合、窒素吸収量が増加し始める5月下旬（定植40日程度）が最適です。



植物全体の窒素吸収量は、5月6半旬から増えはじめ、6月3～6半旬にかけて最も増加量が多い

図1 栽培期間中の窒素吸収量の推移 (R3-R4)

注1) 横軸 () 内は R4 調査日

注2) ①～③は各区の追肥時期(表1)を示す



写真1 令和4年慣行区の生育状況

表1 窒素追肥とたまねぎの1球重、腐敗、収量との関係 (R2-R4)

処理区	追肥 時期	1球重		腐敗 球率(%)	裂皮 割合(%)	出荷規格割合 (%)					商品収量	
		(g)	慣行比			2L	L	M	S	外	(t/10a)	慣行比
慣行(追肥なし)	—	174.8 (100)		2.5	0.8	0	18	48	28	7	3.62	(100)
5月中旬追肥	①	168.8 (97)		0.8	0.8	1	15	45	30	8	3.52	(97)
5月下旬追肥	②	187.3 (108)		3.8	0	1	23	47	24	4	3.91	(108)
6月中旬追肥	③	179.8 (103)		2.5	0.4	1	21	44	27	6	3.73	(103)

注1) 追肥区には各時期1回ずつ硝酸石灰 (N5kg/10a) を土壌表面に散布

注2) 収量は、規格外、腐敗球、障害球を除いたもの

収量は慣行+8%増加

【2 留意事項】

- (1) 春まきたまねぎは栽培期間が短いため、基肥のみの栽培が基本です。本成果は、目標単収 5t/10a に達しない水田転換畑での栽培を想定しており、転換畑での安定生産に寄与します。
- (2) 追肥適期が短いため時期を逃さないように注意しましょう。
- (3) 品種には「もみじ3号」を供試しました。品種の早晚により追肥適期が前後する可能性があります。
- (4) 詳細は令和4年度試験研究成果をご覧ください。

担当研究室 生産環境研究部 土壌肥料研究室

〒024-0003 北上市成田 20-1

TEL. 0197-68-4422

FAX. 0197-71-1085